

『東京古田会』月例会報告①

※文責・新保

●二〇二五年三月度 明石町区民館にて、参加者は会場十四名、リモート六名程度。

第一部(研究発表と懇談会) 司会は中村忠夫幹事

【研究発表】『縄文人のDNA』(石田泉城氏※東海古代史研究会) (一)発表内容…以下の項目について要領よく纏められた資料に沿って丁寧に解説。①縄文・弥生人の定義と縄文時代区分、②DNA関連の基本的な整理、③ホモサピエンスの長い旅(アフリカ単一起源説と日本列島二重構造モデル説)、④Y染色体とミトコンドリアのDNA、⑤現在の各地の縄文人・弥生人情報、⑥突然変異とSNP、⑦まとめ。(二)質疑等…①NHKの一年前の放送。②全ての人類が同じ母系のミトコンドリアを持つのか。③北方系N9bの発祥地はどこか。④アイヌ人は縄文人に「グループ」か。

⑤N9b関連でオホーツク文化の流入時期は。⑥埴原説に関連して。⑦本土でNグループを持つ人で南方系グループはありえるか。⑧列島内のDNA分析はいつ頃の遺跡から可能か。(三)感想等…①学術的な用語等を丁寧に説明され、とてもわかりやすかった。②多岐にわたる質問にもきちんと回答された。③この問題に対する氏の高い見識が伺えた。(発表九〇分・質疑四〇分)

【懇談会】第二部の終了直前に会長からの指名で、新保幹事が「高校教科書二冊の『日本史・古代編』の読後感と懸念事項」(①大和政権(ヤマト王朝)の成立根拠を巨大古墳と関連付けている、②倭国九州王朝説には全く触れていない)を紹介。※詳細をHPに掲載。(二五分)

第二部(勉強会と読書会) 司会是新保幹事

【勉強会】『古田武彦』盗まれた神話

その五(一)対象は、第八章「傍流が本流を制した」。(二)要点は、①この章は十四節から構成。②概要として、「日向の高千穂」に降臨したニギノ命は本流ではなく分流だったことを論証し、以後の穂穂出見命(山幸彦)、ウガヤフキアエズから神武天皇への流れを検証。なお、先生は「神武兄弟は宮崎の日向を根拠とした豪族で、そこから東征した」とされたが、その後、これを改められた。(三)質疑などで、①「海幸・山幸説話」を筑紫から日向への舞台廻しとされた古田先生には先入観があったのでは。②『日本書紀』と異なると、『古事記』

は庶民にとって隠された書物。③神武東征は作文か。神武東征の目的地は大和ではなく遠賀川流域との説も。(解説・質疑三〇分)

【読書会】『岩波文庫『日本書紀』持統紀その五』(一)対象項目は持統五年条。トピックは持統紀にのみ登場する記事「持統の三二回の吉野行幸」。

(二)主要な記事は、「正月」食封を加増、「三月」造籍に際し良賤基準を制定、「八月」十八氏が墓記を上進、「十月」新益京で地鎮祭、等。(三)質疑では、①正月条「筑紫大宰府典筑紫史益への詔」に先行論稿(『市民の古代第六集』(一九八四年)前田博司「九州王朝の落日」)。②同、ここに記された二九年前の出来事として「白村江戦」。③三月条「良民と賤民」で、ここ以外での「賤民」の表記例(「賤」は景行く持統紀に一四カ所出現するが、賤人の意味は、賤賊(景行)、賤奴(卑賤為使(欽明)、賤者(持統))。④「吉野行幸」は目的が不明、天武・持統紀に頻出する広瀬・竜田神の祭祀と合わせて記事にした可能性も。(解説・質疑三五分)